

注文書の転記作業を、AIが引き受ける

FAX・メールの受発注処理を自動化する考え方

2026年8月19日

株式会社DnD <https://dnd-inc.jp/>

この資料の要点

- ・FAXやメールの注文書を手作業で転記するフローは、量が増えるほど人的コストが比例して膨らむ
- ・AI-OCRと生成AIを組み合わせると、読み取り・項目抽出・整合性チェックまでの一次処理を自動化できる
- ・「AI処理→担当者確認→基幹システムへ転記」の段階的な設計から始めると失敗しにくい

なぜ受発注の手入力はなくなるのか

製造業・卸売業・建設業では、取引先ごとにフォーマットが異なること、FAXという入口がデジタル化しにくいこと、金額・数量・納期の誤りが後工程に直結することから、手入力の慣習が続いています。

しかし「だから全部手作業でよい」という結論にはなりません。AIが補える部分を先に自動化し、人が確認する範囲を絞ることで、全体の工数を大きく削減できます。

AIが受発注処理をどう変えるか

AI-OCRは文脈を理解して文字を読み取り、「品番らしい文字列」「数量らしい数字」を推定して抽出します。生成AI（LLM）は抽出されたテキストをさらに整理し、自社システムが読み込めるフォーマットに変換します。

「文字を読む」のがAI-OCR、「意味を理解して整理する」のが生成AI。この2つを組み合わせることによってフォーマットがバラバラな注文書でも一次処理を自動化できる。

FAX注文書の自動化——実際の仕組み

- ・① FAX着信→自動でPDF化・クラウド保存：クラウドFAXがFAXをPDFに変換し、指定の場所に自動保存
- ・② PDF→AI-OCRで文字・構造を読み取り：Make・n8nなどのワークフローツールがPDFをAI-OCRサービスへ送信し、各項目を抽出
- ・③ 生成AIで整合性チェック・フォーマット変換：品番マスタとの照合・異常値チェック・自社形式への変換
- ・④ 担当者が確認→OKで次工程へ：AIの処理結果を担当者が確認し、承認後に基幹システムへ取り込む

導入の3ステップ

- ・ステップ1：最も件数が多い「主要取引先の注文書」1～2社から始める。AI-OCRの精度を実際のデータで確認する。
- ・ステップ2：AI処理→担当者確認の流れを固める。エラー・例外時の対応フローも決めておく。
- ・ステップ3：精度・運用フローが安定したら、承認済みデータを基幹システムへ自動連携する。

注意点

- ・精度100%を前提にしない。例外が起きたときの対応フローを設計しておく。
- ・注文書データをAIサービスに送ることの情報管理を社内ルールと照合する。
- ・品番マスタ・価格マスタとの照合を仕組みに組み込む。

ご相談・お見積りは無料です

受発注処理の自動化設計から基幹システム連携まで、中小企業の業務実態に合わせて支援しています。
<https://dnd-inc.jp/contact.html>